災害対応マニュアル（台風、豪雨時）

「レベル」に応じたとるべき行動と、防災気象情報を活用した早めの備え

警戒レベル	新防災気象情報	取るべき行動
レベル5 **特別警報** **緊急安全確保**	**命の危険** **直ちに安全確保！** **安全な場所へ** **直ちに移動**	**予定していた避難場所への避難が危険な場合には、上層階や、がけから離れた部屋に移動するなど、その場でとることができる少しでも身の安全を確保するための行動をとる** **【勤務中の対応】** **・被災予想のエリアは速やかに安全な場所へ逃げ、命を守る最善の行動をとる** **・拠点長は遅滞なく部門長と関係部門と連携する**
レベル4 **危険警報** **避難指示**	**危険な場所から** **全員避難** **出社前は各自で避難** **出社後は職場で避難**	台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了させる 避難が危険な場合は無理に移動せず、垂直避難のほうが安全な場合もある 帰宅を急がない、安全確保を優先する **【出社前及び勤務中の避難について】** **・出社前に各自治体から避難指示が発令されている場合は、避難指示を優先する** **・危険が迫っている場合は、安全な場所へ避難を開始する** **・必要に応じて従業員に帰宅指示などを行なう場合は、部門長と連携し最適なタイミングを計り、拠点長が指示する** **・帰宅指示など決定した場合は、遅滞なく関係部門と主な関係先へ通知する**
レベル3 **警報** **高齢者等避難**	**危険な場所から** **高齢者等は避難** **必要に応じて** **避難準備、自主避難**	避難に時間がかかる方、避難を支援する方は、危険な場所から安全な場所へ避難する それ以外のかたも、レベル4が発令されたらすぐに避難できるように準備をする 危険を感じたら自主的に避難する 【避難するときの注意点】 ①電気のブレーカーを落とす ②ガスの元栓を閉める ③鍵をかけてカーテンを閉める ④戸締りをしっかりとする 気象庁｜キキクル（大雨などによる災害の危険度の分布をリアルタイムで確認できる） (URL)https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#zoom:5/lat:35.173808/lon:137.768555/colordepth:normal/elements:land **【勤務中の場合】** **(例)線状降水帯発生の可能性があるとき** **・拠点長は被災状況を把握し遅滞なく本部へ報告する** **・拠点長は部門長と連携し、従業員の帰宅や避難指示が必要な場合は、関係部門と主な関係先へ通知する**
レベル2 **注意報** **大雨・洪水・** **高潮注意報**	**ハザードマップなどで** **災害リスクを再確認**	ハザードマップで災害の危険性のある区域や避難場所、避難経路、避難のタイミングの再確認 **【勤務中の場合】** **・通常業務を行なうことを基本とするが、併せて避難準備をする** **・管理職者は万一に備えて処置がとれるよう、情報収集にあたる**
レベル1 **早期注意情報** **早期注意情報**	**災害への心構えを** **高める**	早めに災害への備えをしておくことが重要（雨や風が強くなってからでは、外での作業は危険） 【屋外】 ・窓や雨戸はしっかりと閉める。必要に応じて補強する ・側溝や排水溝は掃除して水はけをよくしておく ・鉢植えや物干し竿などは家の中へ、庭木やプロパンガスなどは固定 ・自動車のガソリンを満タンにしておく 【屋内】 ・飛散防止フィルムを窓ガラスに貼る ・水を確保する ・スマートフォンやパソコンをフル充電する ・避難場所だけでなく食料や薬、携帯ラジオなど非常用に持ち出すものの確認 気象庁｜防災情報（台風や大雨の最新情報） (URL)https://www.jma.go.jp/jma/menu/menuflash.html

参考：政府広報

レベル５大雨特別警報が発表されたときにとるべき行動

すでに安全な避難ができず、
命が危険な状況です
むやみに移動せず
今いる場所よりも安全な場所へ移動して
身の安全を確保しましょう

浸水した場所での車移動は危険！

立ち往生し水没するおそれがあります。
むやみに移動せずに安全な場所で状況が落ち着くまで待機しましょう。

河川・用水路・冠水した箇所へ絶対に近づかない！

特に地下施設やアンダーパス、低地は短時間で浸水する危険があります。

⚠ 浸水深30cm以上となる低地は要注意



市町村が発令する警戒レベル４避難指示までに必ず避難しましょう！

レベル５大雨特別警報が発表される前段階から最新の気象・避難情報を確認！

テレビ、ラジオ、インターネット、SNS、防災行政無線等で最新の情報を確認してください！

浸水リスクを確認しましょう！

ご自身のいる場所が、河川の氾濫や内水氾濫による浸水リスクがないか、自治体が公表しているハザードマップや防災情報を確認しましょう。

内閣府(防災担当)・警察庁・消防庁・国土交通省・気象庁

レベル５大雨特別警報

が発表されたときの車運転の注意点

浸水が懸念されるときは
車での移動を控えてください！
冠水した道路への進入は
命に関わる危険があります
安全を最優先に行動しましょう！

車はわずか30cm程度の浸水でも走行不能になる場合があります

エンジン停止や水圧で
窓やドアが開かなくなります
万が一、ドアが開かなくなった場合の備えとして、
脱出用ハンマーをすぐに使える位置に！





徒歩または早めの避難を心がけ、
やむを得ず車を使う場合は冠水した道路を避けてください

内閣府(防災担当)・警察庁・消防庁・国土交通省・気象庁

災害対応マニュアル（地震時）

2026年8月　内部統制・CSR推進課

◎第一優先はあなた自身の安全確保
「まずは身の安全を守り」➡「次に安全な避難先を確保し」➡「その後近隣と協力して被災した人の救助に当たる」

地震発生！　その時10のポイント

地震時の行動

①まずは身の安全を最優先

【屋内】　安全な場所で身を守る

・揺れがおさまるまで様子を見る
・窓側には近づかない
・冷蔵庫や電子レンジなど重い家電から離れる



【屋外】　公園の中央など安全な場所へ移動

・建物,ブロック塀,自動販売機から離れる
・鞄や上着で頭を保護
・電柱や垂れ下がった電線に近づかない



【高層階】　無理に階下に降りない

・エレベーターは使わない
・エレベーター乗車中は全階のボタンを押す



地震直後の行動

②落ち着いて火の始末
③慌てて外に飛び出さない
④ドアを開け出口の確保
⑤門や塀には近寄らない

落ちついて　火の元確認　初期消火

・火を使っている時は揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。
・出火した時は、落ちついて消火する。



あわてた行動　けがのもと

・屋内で転倒・落下した家具類や　ガラスの破片などに注意する。
・瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。



窓や戸を開け　出口を確保

揺れがおさまった時に、避難ができるよう出口を確保する。



門や塀には　近寄らない

屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。



地震後の行動

⑧自宅の安全と近隣の安否を確認
⑨協力し合って救出・救護。
⑦正しい情報で確かな行動
⑩避難の前に電気・ガスの安全確認
⑥火災や津波に注意し確かな避難

確かめ合おう　わが家の安全 隣の安否

わが家の安全を確認後、近隣の安否や出火の有無をお互いに確認し合う。



協力し合って　消火・救出・応急救護

・近隣で火災を発見した場合は、街頭消火器などにより、協力し合って消火を行い延焼を防ぐ。
・倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。



正しい情報　確かな行動

行政、放送局、鉄道会社などから発信される正しい情報を得る。



避難の前に　安全確認　電気・ガス

避難が必要な時には、復電時の電気機器のショートなど、通電火災が発生する可能性やガス漏れの発生を防ぐため、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めてから避難する。



火災や津波　確かな避難

・地域に大規模な火災の危険がせまり、身の危険を感じたら声を掛け合い、一時集合場所や避難場所に避難する。
・沿岸部や川沿いでは、大きな揺れを感じたり、津波警報が出されたら、高台などの安全な場所に素早く避難する。



◎大事なのは日頃の備え

・「固定電話が通じない」、「携帯がつながらない」は災害時の典型
・家族とは事前に“安否確認の方法”を決めておく

家族で　話し合っておこう

・地震が発生した時の出火防止や初期消火など、家族の役割分担を決めておく。
・外出中に家族が帰宅困難になったり、離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所などを決めておく。
・家族で避難場所や避難経路を確認しておく。
・台風等の風水害が同時期に発生した場合を想定しておく。
・普段のつき合いを大切にするなど、隣り近所との協力体制を話し合っておく。



地域の危険性を　把握しておこう

・自治体の防災マップ等で、自分の住む地域の地域危険度を確認しておく。
・自宅や学校、職場周辺を実際に歩き、災害時の危険箇所や役立つ施設を把握し、自分用の防災マップを作っておく。



防災知識を　身につけておこう

・新聞、テレビ、ラジオやインターネットなどから、防災に関する情報を収集し、知識を身につけておく。
・消防署などが実施する講演会や座談会に参加し、過去の地震の教訓を学んでおく。
・大きな地震の後に同程度の地震が発生する可能性があることを理解しておく。



防災行動力を　高めておこう

日頃から防災訓練に参加して、身体防護、出火防止、初期消火、救出、応急救護、通報連絡、避難要領などを身に付けておく。



参考：東京消防庁『地震に対する10の備え』『地震　その時10のポイント』、日本気象協会

地震発生！　運転時の対応



警察庁・都道府県警察